

火災現場 戦場に例えないで

元消防士

(埼玉県 66)

安倍晋三首相は民放のテレビ番組で集団的自衛権について、

日本と米国という隣り合う家であり、起きた火事に例えました。日米同盟があるので米国と一緒に消火してくれるが、日本はこれまで自分の家に火が付かなければ消せなかったと。これに対し参院特別委員会が民主党議員が批判しました。全国の消防官、OBもあきれたと思います。

火災現場に敵も味方もありません。通報する人、消火器を持ってくる人、ホースを使って水をかける人、逃げ遅れたお年寄りや子どもを助け出す人は

しごをかける人。近所、通りがかりなど関係なく、みんなが火を消すという一つの目的に向かって協力します。

消防隊員は人命救助を第一に、火災による被害を最小限にすることを任務として、日々訓練を重ねています。火事を見逃ごしにする消防官など存在しません。火災現場で、消防隊の仕事ぶりを一度でも見たことがある人なら分かると思います。

安倍首相が説明に使った火災現場の模型は非現実的で、火災現場が軽く見られている印象を受けました。戦場に例えないで下さい。全国の消防官におわびしてもらいたいと思います。

安政法制ノ一 交差点の勇氣

無職

(鳥取県 81)

国民の多くが反対する安全保障関連法案が衆院で可決され、参院で審議中です。憲法を守る立場の政権が勝手に解釈を変更し強行するやり方は卑劣です。

私は12歳の時、授業で憲法を習い、「もう戦争はしない」という9条に生きる希望を持ち、歡喜したものです。安政法案が成立すれば、また人を殺し殺される悲しい国になってしまします。戦争の悲惨さを知る年代として、さきの戦争での多くの犠牲者や、戦争を知らない子や孫たちに顔向けできません。

7月16日の本紙「耕論」で作家の澤地久枝さんの呼びかけを

知り、「アベ政治を許さない」の文字を印刷、拡大コピーしてポスターを作りました。妻と相談して、戦争を知る世代の近所のご夫婦2組とともに18日午後1時、6人で自宅近くの交差点でポスターを掲げ、道ゆく人や車にアピールしました。

勇氣が必要だったのは始めの5分間だけ。多くの人が車窓から会釈してくださり、自転車の若い女性からは「がんばってください」との声も。20分後、私が「もうやめようか」というと「もう10分くらいやろうよ」と隣の奥さん。結局、約40分間で五、六百台が私たちの前を通り過ぎました。頂いた多くの反応に逆に勇氣をもらいました。